

ク ィ ア 学 会 第 二 回 大 会



プログラム

- 10月17日(土) 10:30-12:30 映画上映会 5号館 (AVセンター) 5101教室
主催：関西クィア映画祭実行委員会
10:30-12:50 分科会 (パネル)
13:30-16:00 シンポジウム
16:15-17:45 総会
18:00-20:00 懇親会 (学内)
- 10月18日(日) 10:00-12:20 分科会 (個人報告・パネル)
12:20-13:20
「クィア学会 研究倫理ガイドライン (仮称)」検討ワークショップ 1号館 1111教室
主催：「クィア学会 研究倫理ガイドライン (仮称)」検討ワークショップ(2008年11月～)を運営するクィア学会会員有志
13:20-15:40 分科会 (個人報告・パネル)

大会参加費：会員1,000円、非会員2,000円

開催地：津田塾大学小平キャンパス
開催日時：2009年10月17日(土)、18日(日)

目次

開催地・開催日時・プログラム	1
シンポジウム詳細	2
同時開催プログラム	3
・映画上映会 「男子であること/Boy I Am」	
・「クィア学会 研究倫理ガイドライン (仮称)」検討ワークショップ	
個人報告/パネル詳細インデックス	4
報告要旨	5～8
大会会場案内	9
お弁当&懇親会について	10
学会入会情報	10

映像を^{q u e e r}読む: 見えること、見えないこと

シンポジウム趣旨

1990年代以降を境に、LGBT当事者を表象する映画の増加につれ、「クィア映画」は特定の対象を持つ一つのジャンルとして定着しつつあるように見受けられます。

このことは一面では、ハリウッド映画からコミュニティベースのドキュメンタリーにいたるさまざまな映像表現において、現代社会を生きるLGBT当事者が直面する問題や喜びなどの可視化が進んできた証として、評価することができるでしょう。

しかし、まさしくそうであるからこそ、このような可視化の進行の背後で不可視化されるものに関する問いもまた、成立するでしょう。集客力の大きい劇場映画におけるわかりやすいLGBT表象を通して、どのような「クィア」イメージがあらたに強調され、どのようなイメージが非規範的（クィア）なものになっていくのか。

本シンポジウムでは、「クィアな存在の表象」から「クィアな読み」へと焦点を移し、見えないはずのもの／ことを見、見えると思ったはずのもの／ことが見えなくなる地点をさぐるような、可視性の領域へのクィアな介入としての「読み」の可能性を検討していきたいと考えています。

登壇者の方々には、娯楽映画・ドキュメンタリー・実験映像など幅広いジャンルを扱いながら「映像を読む」行為を通して、見えることと見えないことをめぐる諸問題について議論していただく予定です。

—シンポジスト—

齊藤綾子 (明治学院大学)

ジョナサン・マーク・ホール (ポモナ大学)

河口和也 (広島修道大学)

—司会—

清水晶子 (東京大学大学院)

シンポジストプロフィール

齊藤綾子：明治学院大学文学部芸術学科教授。共著書に『男たちの絆、アジア映画』（平凡社）、編著に『映画と身体/性』（森話社）など。

ジョナサン・マーク・ホール：ポモナ大学（米・カリフォルニア）メディア学科助教授。日本映画史、クィア理論、精神分析理論。平成21-22年度明治学院大学にて日本学術振興会特別外国人研究者。著作に“Area Studies at the Bedroom Door: Queer Theory, Japan, and the Case of the Missing Fantasy,” *Japanese Studies* 23: 2; “Japan’s Progressive Sex: Male Homosexuality, National Competition, and the Cinema,” *Queer Asian Cinema: Shadows in the Shade* New York: Harrington Park Press, 2000. 31-82.

河口和也：広島修道大学人文学部教員。著書に『クィア・スタディーズ』（岩波書店）、訳書に『グローバル・セックス』（岩波書店）など。

映画上映会

日時：10月17日(土) 10:40-12:30 (開場 10:30)

場所：5号館 (AVセンター) 5101教室

主催：関西クィア映画祭実行委員会 (<http://kansai-qff.org/>)

入場料について

学会から予算をつけておらず、関西クィア映画祭実行委員会の独自採算での上映であるため、上映会参加費が別途必要です。(学会参加にあたり大学等から何らかの金銭援助を受けられる人は1人1000円、自費で学会に参加している人は1人500円となります)

タイトル：映画「男子であること/Boy I Am」上映と意見交換会

内容：トランスしても、前からのカノジョとうまくやっていけるの？男としてパスすると、レズビアン業界には居られないの？トランスして黒人男性になった時に受ける人種差別の方がひどいの？3人のFtMの語りを通して、ホルモン摂取や手術を受けて身体を変えることで、いかに生活全般が変化するかを描くドキュメンタリー。FtM本人、パートナー、友人の生の声だけではなく、トランス男性を受け入れ難く感じる一部フェミニストとトランス活動家との議論も収録した、クィア的にもフェミニズム的にも学術的にも豪華な映画。必見です。

(監督：Sam Feder and Julie Hollar/70分/2006年/米国/英語/日本語字幕)

「クィア学会 研究倫理ガイドライン (仮称)」 検討ワークショップ

日時：10月18日(日) 12:20-13:20

(昼食時；ランチョンミーティング)

場所：1号館 1111教室

主催：「クィア学会 研究倫理ガイドライン (仮称)」検討ワークショップ(2008年11月～)を運営するクィア学会会員有志 (世話人：溝口彰子) メール: queerethics@infoseek.jp

入場料：大会参加費に含まれます。

タイトル：調べる、伝える、表現する — 「つながる」ための研究「倫理」とは？

内容：セクシャル・マイノリティを研究対象にするケースが多いクィア・スタディーズ。もちろん、クィアな領域で調べ、伝え、表現するのは研究者だけではなく、ジャーナリスト、アクティヴィスト、ブロガーなど多種多様。この数年で、その数は驚くほど増えました。その事実は「喜ばしいこと」である反面、「仲間だと思って取材を受けたのに利用された」と思う当事者コミュニティをはじめ、様々な問題が残念ながら発生しています。本来、「つながる」ための有意義な営みであるはずのクィア・スタディーズを円滑に実践していくにはどうすればいいのか？まずは近過去の「問題」を共有し、幅広く参加者の方々のご意見をうかがいたいと考えています。

※ランチョンミーティング形式です。ランチ持参でのご参加を歓迎します。

個人報告／パネル詳細（インデックス）

第1パネル部会—17日 10:30-12:50 @5301教室

アートはクィアだ！
 中村美亜（お茶の水女子大学ほか）
 Cherubin d'amore — モーツァルトのオペラ
 《フィガロの結婚》におけるケルビーノの歌と身体
 向井大策（東京音楽大学ほか）
 ピピロッチェ・リストの映像作品におけるクィア性
 齋藤理恵（東京藝術大学）
 「マイノリティ・トラベル」 — 健常／障害
 の境界線をめぐって
 長津結一郎（東京藝術大学）

5 ページ

第2パネル部会—18日 10:00-12:20 @5301教室

ブッチ・レズビアンにとって「女である」とはどう
 いうことか？
 ミヤマアキラ（フリーランス）
 female-female impersonation（「女性」が「女
 性」を演じること）
 井芹真紀子（一橋大学大学院言語社会研究科修士課程）
 〈貧困〉は〈クィア〉か
 松本政輝（マサキチトセ）（所属なし）
 「当事者」とは何か？
 川坂和義（東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程）

5 ページ

第1個人報告部会—18日 10:00-12:20 @5310教室

都市に混住するゲイタウン — 大阪市北区堂山町を
 事例に
 鹿野由行（甲南大学大学院 研究生）
 沖縄県におけるゲイコミュニティの特徴に関する研
 究
 加藤 慶（横浜国立大学大学院環境情報研究院社会環境と情報部門）
 ハッテン場・必勝法！（ただし55年前の）
 石田 仁（聖マリアンナ医科大学非常勤講師）
 ゲイ男性のつながり方を「歴史化」する
 森山至貴（東京大学大学院）

6 ページ

第2個人報告部会—18日 10:00-12:20 @5308教室

女性向け男性同性愛マンガの女性キャラクターの表象
 西原麻里（同志社大学大学院社会学研究科メディア学専攻 博士課程）
 『性的人間』における男性同性愛表象（仮）
 黒岩裕市（一橋大学 博士研究員）
 MとW — 「女性的な男性同性愛者」イメージの生成
 前川直哉（京都大学大学院 人間・環境学研究科 博士後期課程）
 「ソドミー法」とはいかなる法だったのか？ — イギ
 リスにおける「ソドミー事件」を事例に
 野田恵子（日本学術振興会特別研究員）

6 ページ

第3パネル部会—18日 13:20-15:05 @5307教室

ひとつの応答
 イトターリ（パフォーマンス アーティスト）
 買われる「少年」のための歌物語
 岩川大祐（東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻修士課程）
 個展「Coming out 1」
 篠原佑一（名古屋芸術大学 美術学部絵画科）

7 ページ

第3個人報告部会—18日 13:20-15:40 @5310教室

「誰」の支援を論じるのか？ — いわゆる「性規範」にあてはまらない
 人びとを抱える問題の調査と、社会的支援に関する議論への問題提起—
 宮崎 理（北星学園大学大学院社会福祉学研究科社会福祉学専攻修士課程）
 コミュニティセンターSHIPにおける利用者の現状 — 孤
 立した性的マイノリティ当事者をコミュニティにつなげるために
 厚美哲也・星野慎二（厚美：かながわレインボーセンターSHIPスタッ
 フ、星野：かながわレインボーセンターSHIP代表）
 LGBT運動における「アライ」についての考察 — 2009年
 アイダホ in 名古屋を中心に
 張 小青（名古屋大学国際言語文化研究科後期課程）
 「マジョリティーとしての責任をとる」とはどうい
 うことか
 ひびのまこと（ばらいろネット <http://barairo.net/>)

7 ページ

第4個人報告部会—18日 13:20-15:05 @5308教室

レオ・ベルサーニの精神分析受容について
 宮澤由歌（大阪大学人間科学研究科基礎人間科学講座博士前期課程1年）
 移動のなかのクィア
 松村美穂（一橋大学社会学研究科博士後期課程）
 ジュディス・バトラーにおける身体表象
 森川智成（東京大学大学院総合文化研究科）

8 ページ

一人名索引

五十音順

厚美哲也……………7	ひびのまこと……………7
石田 仁……………6	星野慎二……………7
井芹真紀子……………5	前川直哉……………6
イトターリ……………7	マサキチトセ……………5
岩川大祐……………7	松村美穂……………8
加藤 慶……………6	松本政輝……………5
鹿野由行……………6	宮崎 理……………7
川坂和義……………5	宮澤由歌……………8
黒岩裕市……………6	ミヤマアキラ……………5
齋藤理恵……………5	向井大策……………5
篠原佑一……………7	森川智成……………8
張 小青……………7	森山至貴……………6
長津結一郎……………5	
中村美亜……………5	
西原麻里……………6	
野田恵子……………6	

報告要旨 1

第1パネル部会—17日 10:30-12:50 @5301教室

アート・ミーツ・クィア 司会：中村美亜

アート（広い意味での文化表現活動）は、歴史的にも概念的にもクィアとの親和性が高い。実際、私たちの身近でも、共感や異化、身体感覚や記憶に訴えながら、マイノリティ/マジョリティの境界を築き直していくさまざまな試みが繰り返されている。本パネルでは、音楽・美術・演劇などのアートとクィアがどう結びついてきたか、アートは今ある現実を変えることができるかなど、複数の実践例を紹介しながら考えていく。

アートはクィアだ！

中村美亜

「アートは社会の役に立たない」と言われるようになって久しい。しかし、それは近年アートの持つ一面だけが強調されているからではないだろうか。本パネルの導入として、逸脱・身体・公共・記憶をキーワードにアートとクィアの関係性を問い直し、新宿で毎月開催される“人と人をつなぐLiving Together Lounge”の取り組みを紹介する。

Cherubin d'amore — モーツァルトのオペラ《フィガロの結婚》におけるケルビーノの歌と身体

向井大策

ケルビーノは飛びまわりながら、《フィガロの結婚》の恋愛ゲームを攪乱する。聴き手に対して共感と同時に異化作用も誘い出すケルビーノの音楽的身体と、その変幻自在な「声の異性装cross-voicing」について考察することで、モーツァルトの音楽がもっていた（いる）かもしれないラディカルなクィア性を描きだす。

ピピロッチェ・リストの映像作品におけるクィア性

齋藤理恵

ピピロッチェ・リストのビデオ・インスタレーション作品では、女性性が両義的なものとして描かれる傾向が強く、その核心には幼児期における遊戯性を併せ持っている。作品の共有体験という「儀式」によって、鑑賞者は日常からのズレを認識する。こうした、公と私を軽やかに横断するリストにおけるクィア性について検討する。

「マイノリマジョリテ・トラベル」 — 健常/障害の境界線をめぐって

長津結一郎

障害者は非常にクィアな存在である。彼らの表現は福祉的余暇活動として捉えられがちであるが、障害/健常の相対性や、その境界線の流動性を明らかにする。「マイノリマジョリテ・トラベル」による舞台表現活動の事例を紹介し、新たな表現や、価値観の変容の可能性について検討する。

担当者
釜野さおり

17日10:30-12:50@5301教室

第2パネル部会—18日 10:00-12:20 @5301教室

クィアと属性；誰が「クィア」と見なされるのか？

司会：川坂和義

「クィア」であるということは、何を意味するのか？ 現在日本において「クィア」は、ゲイ、レズビアン、バイ、トランスジェンダー/セクシュアルといった特定のセクシュアリティとほぼ同義語で使われることが多い。このパネルでは、特定のセクシュアリティやアイデンティティだけではなく「クィア」を取り巻く複雑な歴史的、文化的文脈に注目し、「クィア」の属性が自明視されることの問題点や特定のアイデンティティに還元されない「クィア」の可能性についてそれぞれの立場から議論を行う。

ブッチ・レズビアンにとって「女である」とはどういうことか？ ミヤマアキラ

性同一性障害という概念が人口に膾炙するとともに、自身の「おんな性」を否定する者は診断の有無にかかわらずGIDと名乗ったり、トランスを自認する動きが強くなっている。一方、「レズビアンは必ずしもボーイッシュであるとは限らない」という言説とともに、映画やドラマをはじめとしてフェミニンなレズビアン表象が目立ち始めている。これらの台頭によってその存在がよりいっそう不可視化されているブッチ・レズビアンは、いまや絶滅の危機に瀕していると言われる。この発表では、GIDやトランスに依拠しないブッチの身体観や性自認について検証を行う。

female-female impersonation（「女性」が「女性」を演じること） 井芹真紀子

トランス的な身体（表象）は、身体とジェンダーの切り離し可能性やアイデンティティのパロディ性を表すものとして、90年代以降のクィア理論において重要な位置を占めてきた。しかし一方で、トランス的身体が可視化する「このようにありたい自分」を即ち「本当の自分のあり方」と見なすアイデンティティ主義的な前提も根強く残っている。しかし、特に身体とジェンダーとの乖離が明確ではない場合に必要となるのは、「本当の自分」としてではなくむしろ「本当のあり方ではない者」としての承認である。本発表では、「わたし」に近づくためではなく、「わたし」から距離をとるためのパフォーマンスの可能性を、女性性の実行の問題として検証する。

〈貧困〉は〈クィア〉か 松本政輝（筆名：マサキトセ）

「誰があるいは何が『クィア』と呼ばれるのか」の検証に力を注ぐ一方で、私たちは「誰がそれを『クィア』と呼ぶのか」の検証を怠っていないだろうか。「クィア」という言葉は、他人に呼びかけられる罵倒の言葉だった。しかし現在、何が「クィア」かを分かった気になって他人や多文化を「クィア」と呼んでいるのは、まさしく私達たちではないか。そのような私たちの特権性を認識し、暴露するために、この発表では特にセックスワーカーや貧困層の女性に焦点を当て、いかに「クィア/アンクィア」の境界が西洋近代中産階級の価値観を中心に構築されているかを検証する。

「当事者」とは何か？ 川坂和義

90年代以降の日本のセクシュアリティに関する議論の中で「当事者（性）」という概念は、マジョリティとマイノリティを分節化したり、ある言説に政治性や正当性をもたらす役割を果たしてきた。だが、この概念は、「アイデンティティ」や「カミングアウト」といった概念と比べるとセクシュアリティ研究の中で十分な理論的検討がなされているとは言い難い。この発表では、「当事者（性）」という概念とそれを用いた言説の政治性の特徴を分析した後、その問題点を批判的に検討する。

担当者
河口和也

18日10:00-12:20@5301教室

第1個人報告部会—18日 10:00-12:20 @5310教室

都市に混住するゲイタウン — 大阪市北区堂山町を事例に

鹿野由行

大阪市北区堂山町は日本で二番目に大きいゲイタウンと言われているが、ゲイバーの他にもキャバクラなど風俗店の集まる繁華街、民家、商店などが混在する商店街でもある。

これまで、ゲイタウンと商店街は全く異なる概念として捉えられ、研究においても異なる対象として分析されてきた。しかし、堂山町は多様な性と性質を併せ持つ特殊な空間であり、ゲイタウンという要素は商店街や地域の人々にとっても街を形成する一要素となっている。

ゲイタウン「堂山」は都市の一側面であるという視点を持ちつつ、堂山町を歴史とコミュニティの変化から捉えていく。

沖縄県におけるゲイコミュニティの特徴に関する研究

加藤 慶

沖縄県におけるゲイコミュニティは、どのような特徴があるのか。沖縄県は、平成19年HIV感染/AIDS患者数において、人口10万人あたり、東京都に次いで全国2位であり、その多くが男性同性間性的接触を理由とするものであった。なぜこのような現象が起こっているのか。本研究により、沖縄県は男性人口比で全国2位のゲイスポットがあり、単独県で全国1位であることが明らかとなった。また、恋愛観等においても特徴があることが明らかとなった。なお本研究は、平成20-21年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「沖縄県における男性同性愛者へのHIV感染予防介入に関する研究」(研究代表者:加藤慶)による研究成果の一

ハッテン場・必勝法！(ただし55年前の)

石田 仁

男性同性間の匿名的性交渉の空間(以下、ハッテン場)に関する研究は、疫学をのぞいてほとんどなかった。そこで報告者は『ADONIS』の一時期にハッテン成功譚として大好評を博した投稿手記「悪食」を取りあげ分析する。そこでは「大人」の投稿者が、映画館などで「大学生」「高校生」を「悪食」していく様子が描かれる。当時のハッテンの「成功/非成功」を分かつ最大の点は、相手が「セミプロ」かどうか見抜くことと、社会的コンテクストの中で自らを「普通の人」であると自己呈示するところであった。本報告では現在との異同を示し、60年代終盤に登場したサウナ系ハッテン場が「セミプロ」を消滅させるに至った所までを述べたい。

ゲイ男性のつながり方を「歴史化」する

森山至貴

近年「クィア業界」でもコミュニティという言葉はますます頻繁に用いられるようになっており、ゲイ男性に特化したゲイコミュニティという言葉もそれなりに一般化している。しかし、コミュニティという言葉が用いられる前にはゲイ男性同士のつながりがなかったわけではないだろう。逆に、コミュニティという言葉が使われる前からゲイ男性のつながり方は変わらなかったというノスタルジックな言明も、注意深く再検討される必要がある。ゲイ男性のつながり方はそもそもどのように「歴史化」されるべきか。この論点をめぐって報告を行う。

担当者
風間 孝

18日10:00-12:20@5310教室

第2個人報告部会—18日 10:00-12:20 @5308教室

女性向け男性同性愛マンガの女性キャラクターの表象 西原麻里

生物学上の性と性自認が男性であるキャラクターが恋愛・性愛物語を繰り広げていく「ボーイズラブ」は、結末で女性と結ばれることはほとんどないため、必然的に男性しか世界の中心として存在しえない構造になっている。

このような物語世界で、女性はいかなる人物として登場を許されているのだろうか。彼女たちはつねに周縁に位置しており、言葉どおりの意味でのホモソーシャルであるボーイズラブでは、その存在の意義すら見つけにくい。

本発表では、「交換」されるものとして生産/再生産の体系に組み込まれず、ボーイズラブの男性主人公と敵対/親和する女性キャラクターに注目し、彼女たちの表象からいかなる意味を見いだせるかを考察したい。

『性的人間』における男性同性愛表象(仮) 黒岩裕市

本報告は大江健郎の中編小説『性的人間』(『新潮』1963・5)における男性同性愛表象を分析するものである。小説前半では「J」と呼ばれている二十九歳の青年が「自分を核とした自分流の性の小世界」を築こうとするのだが、その発端には彼と外国人男性との「ホモ・セクシュアルの関係」とそれを知ったJの最初の妻の自殺があった。Jが目論む「性の小世界」とはいかなるものか。一方、後半になると、Jは「ある朝、不意に」女性を対象とする「痴漢となることに定めた」という。それはなぜか。テキストに持ち出される「男色家の本質」という見解や、「ホモ・セクシュアル」と犯罪、政治の関連性を手がかりにしながら検討したい。

MとW — 「女性的な男性同性愛者」イメージの生成 前川直哉

現在も流布する「男性同性愛者」と「女性性」を結びつけるイメージ(「男性同性愛者は女性的だ」「女性的な男性は同性愛者(である可能性が高い)」など)は、日本ではいつ、どのように普及・定着したのか。また、それを社会や当事者が受容していった過程は、どのようなものだったのか。本発表では特に、20世紀初頭にotto・ヴァイニングが提示した「男性と女性とは連続体である」という仮説が、大正期の性欲学に援用され、クラフト・エビングの学説に接合されていく様子を中心に検証する。

「ソドミー法」とはいかなる法だったのか？ — イギリスにおける「ソドミー事件」を事例に

野田恵子

本報告の目的は、現在では「同性愛」と同義とされる傾向のある「ソドミー」という行為が、実際にはどのような問題系につらなる事象であったのか、を見ることによって、それが現在の「同性愛」という問題系とどのように重なり、どのようにズレていたのか、を考察することにある。本報告では特に、イギリスにおける「ソドミー法」とそれをめぐる事件に焦点を当て、キリスト教において「ソドミー」はどのような意味で「罪」とされたのか、また、世俗化された「ソドミー法」において「犯罪」とされたのはいかなる行為であったのか、そしてそれが現在の「同性愛」という問題認識にどのようにかわり、「同性愛」概念にどのような傾きを与えているのか

担当者
堀江有里

18日10:00-12:20@5308教室

第3パネル部会—18日 13:20-15:05 @5307教室

芸術表現とクィア・カテゴリーの“うちなる”差異、再考

司会：岩川大祐

2009年の日本において「芸術表現とクィア」について考えようとする「わたしたち」は、1990年に「クィア」という言葉を学問の領域ではじめて使用したテレサ・デ・ラウレティスが提起した問いを次のように変換してみようと思う。“「クィア」という言葉によって表現者が話せるようになることは何か？”と。カテゴリーのうちなる差異は、芸術によってどのように生々しく表現されるのか、そしてカテゴリーを超えて行くのか。本発表は、身体表現、絵画、言語表現という三者三様の表現者が集まりクロストークを行うことによって、さらに緻密に「わたしたち」のあいだの差異を見つめ、横断し、連帯の可能性を見いだそうとする試みである。

ひとつの応答

イトータリー

自分が何者か知りたい時に「カテゴリー」に自分をみつけるヒントを探す。しかし、「カテゴリー」と自分との間に差異が生じることがまま在る。そんな抜き差しならぬときに表現の衝動が生まれる。「芸術」もまた「クィア」と同じように「絶対」とは無縁な代物だ。

買われる“少年”のための歌物語

岩川大祐

超左翼マガジン「ロスジェネ」という雑誌に「買われる“少年”のための歌物語」という物語を書いた。「短歌」という形式で書けることもあるだろうと想っていたことである。言葉によって表現するときにあふれだし、こぼれてしまうような何かについて、ジェンダー／セクシュアリティと交差させて考えたい。

個展「Coming out 1」

篠原佑一

09年6月19日から24日まで、大学内のギャラリーにて初個展「Coming out 1」を行った。その展示風景や現在の作品を画像で紹介しながら、制作意図や今後の活動についての説明を行う。

担当者
清水晶子

18日13:20-15:05@5307教室

第3個人報告部会—18日 13:20-15:40 @5310教室

「誰」の支援を論じるのか？—いわゆる「性規範」にあてはまらない人びとが抱える問題の調査と、社会的支援に関する議論への問題提起— 宮崎理

昨今、いわゆる「性規範」にあてはまらない人びとが抱える問題が調査されつつあり、そうした人びとへの社会的支援の必要性が論じられつつある。だが、例えば「レズビアン」「ゲイ」などアイデンティティ・ポリティクスの文脈に依拠したカテゴリーや、「LGBT」「セクシュアル・マイノリティ」などある種の人びとを包含するようなカテゴリーを用いた調査・研究により、そこにはあてはまらない人びとの排除や差異の無化がおこなわれてはいないだろうか。本発表では、種々の先行研究を批判的に検討し、それらが孕む問題点を指摘する。そして画一的なカテゴリー化には拠らない方法での調査・研究の可能性についての問題提起をおこないたい。

コミュニティセンターSHIPにおける利用者の現状—孤立した性的マイノリティ当事者をコミュニティにつなげるために 厚美哲也・星野慎二

性的マイノリティ当事者のためのコミュニティセンターである「かながわレインボーセンターSHIP」（以下、SHIP）は、平成19年に神奈川県との協働事業によりオープンし、今年で3年目を迎える。様々な事業を行なう中で、多くの性的マイノリティ当事者が、SHIPを利用してきた。

本報告では、(1)SHIPのこれまでの事業内容・運営における課題等を紹介するとともに、(2)SHIPの利用者、とりわけ孤立した性的マイノリティ当事者が、いかにしてコミュニティにつながり得るのかを、SHIPにおける具体的な事例を通して考察する。

この報告により、性的マイノリティの現状・当事者がコミュニティへつながる際の困難を考察する時

LGBT運動における「アライ」についての考察

—2009年アイダホ in 名古屋を中心に 張 小青

2009年5月17日名古屋発信のセクシュアル・マイノリティとアライの団体—2in20 nagoya—がアイダホ・イベントを行った。報告者はそのイベントを撮影し、LGBTという当事者ではなく、LGBTの活動を支援する人たち「アライ」に注目し、それをテーマに編集した。本報告では、この映像化を上映し、LGBT運動における「アライ」の立場と活動を紹介するとともに、「アライ」についての理解がいかに曖昧で少ないかについて発表する。「アライ」によって「異性愛者および非トランス者」とLGBTの間に新たな緩衝カテゴリーが可能となるか否かを見極めながら、「アライ」とクィアの関係性を考察したい。

「マジョリティーとしての責任をとる」とは

—どういふことか ひびのまこと

男性特権への無関心やバイセクシュアル攻撃、同性愛者中心主義など権力志向の言動を繰り返して来た伏見憲明さんをクィア学会の設立大会でパネルに呼びながら、その場で本人への明示的な批判をしなかった（らしい）学会側のパネラーや参加者への批判の意味も込めて、今回は伏見批判をする予定でした。が、自身の持つ特権の責任をひき受ける意志のある人達と建設的な対話をした方がより実り多いので、上述の趣旨を裏側から言い直して、標記の発表をします。伏見さんは、自身の特権に鈍感な活動家の例として言及予定。

クィア学会を「学者の集まり」にしないことを意図し、敢えてアカデミック体裁を取らず、活動家としての問題提起を行います。

担当者
石田 仁

18日13:20-15:40@5310教室

第3個人報告部会—18日 13:20-15:05 @5308教室

レオ・ベルサーニの精神分析受容について

宮澤由歌

ゲイ理論家であり、アメリカの仏文学者であるレオ・ベルサーニは、性的な場面を含む、対面する2者の新しい関係性について検討を行っている。最近の著作や講演によれば、ベルサーニは方法として、精神分析のセッションを参考に考察を行っている。対面する2者の新たな関係性が、異性愛主義に影響を与える可能性を持っていると主張するベルサーニの思想に近づく手がかりとして、ベルサーニが精神分析をどのように受容し、精神分析とどのように関わりを持とうとしているのかについて報告を行う。

移動のなかのクィア

松村美穂

本報告は、近年英語圏でなされている移民研究とクィア研究の接点での議論、なかでもポストコロニアルの立場の議論を参照しながら、それを戦争や軍隊の研究に応用する試みである。近年の移動研究は「バーチャルな移動」や「情報としての身体の移動」を含み、近代国家における「定住＝正常／移動＝逸脱」の区別や「南から北へ」という従来の枠組みを、場所と身体の変容から拡大的に脱構築している。ここでは、移動とクィアの両方の意味が拡大され、人々と国家や資本とのあいだの（非対称な）交渉や共犯関係が理論化されてきている。本報告はこれらを用いて、近年フェミニスト研究が目撃してきた「女性兵士」の議論を再考したい。

ジュディス・バトラーにおける身体表象

森川智成

本発表では、アメリカのフェミニスト・クィア理論家であるジュディス・バトラー（1956～）の議論を、前期の〈ジェンダー論〉と後期の〈倫理論〉に大別して〈前期バトラー〉と〈後期バトラー〉のそれぞれにおける理論的展開を跡づけることを試みるとともに、〈ジェンダー論から倫理の構想へ〉というバトラー理論の展開の是非を、前期バトラーの議論と後期バトラーの理論が理論的に連絡し合っていることを示した上で、バトラーのテキストにおける身体表象のあり方に焦点化することで読み解いていく。

18日13:20-15:05@5308教室

担当者
菅沼勝彦



大会会場案内

大学所在地（小平キャンパス）
〒187-8577 東京都小平市津田町2-1-1

○JR中央線でいらっしゃる方

国分寺駅で西武国分寺線東村山行きに乗り換え、鷹の台駅下車、徒歩約8分。
（東京駅から小平キャンパスまで乗り換え時間を含め約70分）

○多摩モノレールでいらっしゃる方

立川北駅または立川南駅で下車、立川駅でJR中央線に乗り換え、国分寺駅で西武国分寺線に乗り換え、鷹の台駅下車徒歩8分。

○西武新宿線でいらっしゃる方

東村山駅で西武国分寺線国分寺行きに乗り換え、鷹の台駅下車、徒歩約8分。（高田馬場駅から小平キャンパスまで、乗換時間等を含め約60分）

○西武池袋線でいらっしゃる方

所沢駅で西武新宿線に乗り換え、次の東村山駅で西武国分寺線国分寺行きに乗り換え、鷹の台駅下車、徒歩約8分。

（池袋駅から小平キャンパスまで、乗換時間等を含め約75分）

○JR武蔵野線でいらっしゃる方

新小平駅下車、徒歩約18分。（武蔵浦和駅から小平キャンパスまで、約55分）

○東武東上線でいらっしゃる方

朝霞台駅下車、北朝霞駅でJR武蔵野線に乗り換え、新小平駅下車、徒歩約18分

（宿泊情報）

津田塾大学小平キャンパスへのアクセスの近さを考えると、鷹の台等最寄りの駅周辺にも宿泊施設はありますが、数は多くありません。種類や数の多さ、予約利用の利便性からすると、国分寺駅周辺や、少し離れますが、立川、三鷹、吉祥寺、中野駅周辺の宿泊施設のご利用も検討されることをおすすめいたします。



なお、メイン会場となります津田塾大学の5号館（AVセンター）は、飲食禁止です。また、指定場所以外禁煙となっております。みなさまのご協力をお願いいたします。

お弁当 & 懇親会について

お弁当について

学会期間中は両日とも、大学構内で、お弁当などを購入できる場所はありません。必要な方は各自ご持参いただくか、地図内にある周辺のコンビニエンスストア等をご利用ください（ただし、鷹の台駅等最寄り駅周辺は多くないので、都心で購入されることもご検討ください）。学会によるお弁当の予約は受け付けませんので、ご注意ください。

懇親会について

学会初日(10月17日、土)の総会終了後、18:00から20:00まで学内にて懇親会を行います。みなさまふるってご参加ください。懇親会費は、会費の区分が「常勤職のない方」で、かつ学生の方のみ2,500円、それ以外の方はすべて4,500円です。
(会費の区分については、学会入会情報をご参照ください)

学会入会情報

学会未加入の方は、この機会に是非ご加入ください。

会計年度境月：10月→翌年9月 会費納入方法：研究大会および郵便振替にて
会員の特典：機関誌『論叢クィア』を進呈します。機関誌への投稿および大会発表の申込みの権利があります。

年会費：常勤職に就いている方（日本学術振興会特別研究員などを含む）は8,000円、学生・院生・OD等常勤職のない方は5,000円です。当該年度内に常勤職についている期間がある方は、常勤職とします。海外在住の方の年会費は、学会誌の郵送やカード決済の手数料等の費用を考慮し、1,000円の増額をさせていただきます。

入会の方法：

1. 入会申込書をクィア学会事務局宛に添付メールか郵送の形でお送りください。入会申込書は <http://www.queerjp.org/anai.html> よりダウンロードできます。送付先：
membership@queerjp.org 郵送の場合は：〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学大学院 総合文化研究科 清水晶子気付 クィア学会事務局
2. つぎに、郵便振替で下記口座まで年会費を払い込み下さい。入会金は徴収しておりません。 口座：00170-7-412546 加入者名：クィア学会
3. ご入金完了したら、入会完了の案内をお知らせするとともに、会員番号が付された領収書をお送りします。お名前と会員番号によって会員管理をさせていただきますので、領収書を失くさずに保管ください。

寄付のお願い：クィア学会は、寄付を随時募集しております。お支払いいただいている会費は、学会誌と次年度の大会準備資金として使われ、運営に余裕がない状態が続いております。みなさまには入会の積極的な勧誘とともに、寄付をぜひお願い申し上げます。

【郵便口座の場合】口座番号：00170-7-412546 加入者名：クィア学会

【PayPalの場合】：クレジットカードによる寄付もできます。

https://www.paypal.com/j1/cgi-bin/webscr?cmd=_home-general&nav=0%81j

※寄付されるさいには、寄付であることをお知らせください。

学会当日にも受付において寄付をお受けいたしますので、
どうぞよろしくお願ひいたします。